

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岐阜西中学校

校長名 村田 明治

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<p>○コミュニティ・スクールの機能等を活用し、地域の中で子どもが活躍できる場を設定する。</p> <p>○くいじめ未然防止のための4つの約束を全職員が常に意識し、チームで取り組む。即時報告、対応の徹底。</p>	B	<p>・コロナ禍の影響で本年度も多くの地域行事が中止となり、子どもの活動の場は制限されたが、2回の地域貢献活動と朝のボランティア掃除(CVS)は継続して実施した。</p> <p>・いじめ対策監を中心にいじめの未然防止の取組を地域に発信した。また、校区の小中学校とも連携し同様の活動を実施した。 ※ピンク・ピース・ウィーク等</p>	<p>・コロナ禍で地域の行事がなくなったが、地域貢献活動で生き生きと頑張っている子どもの姿が見れてよかった。</p> <p>・小、中、地域を巻き込んだいじめ未然防止の取組(ピンク・ピース・ウィーク)は、西中学校区全体でいじめについて考えるよい企画であった。これからも続けたい。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の動向をもとに、再開する予定の地域行事へ生徒のボランティアでの参加を促す。</p> <p>・本年度作成した「岐阜西中学校人権宣言」をもとに、子ども自身が自分たちの生活ぶりをふりかえる取組を進め、自尊の精神を育てる。(ピンク・ピース・ウィーク等は継続)</p>
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<p>○社会に視野を向けた知識や考え方を身に付けることができるよう、朝のコラム学習を継続的に実施する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策には万全を期しながらOUTPUT型授業を積極的に取り入れたり、基礎学力の定着を図る取組を行ったりする。</p>	B	<p>・継続してコラム学習を実施できた。タブレットを活用した自主学習の取組も試行した。</p> <p>・感染症予防の観点から、グループ、ペアで互いに意見を交流する方法・時間には制約があり、全体交流でOUTPUTをめざしたが、さらに学習過程に工夫が必要である。タブレットのアプリケーションによる意見の交流方法も一層活用する。</p>	<p>・授業の様子が参観できなかったことは仕方がない。近くの子どもから聞く話や学校のHPから、タブレットを生かした学習が少しずつ広がり、成果を残しつつあることが分かる。</p> <p>・HPから、コロナ禍の中で思うように指導を進めることができない中でも置かれた状況下で工夫する先生方の様子が分かる。</p>	<p>・これまでの内容に加え、朝の活動の時間の有効な使い方を模索する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対応の変更により、授業への制約は軽減される可能性があるため、子どもが自分の意見を自分の言葉で主張し合う場を効果的に位置付ける。また、共に学ぶ相互援助活動の場も位置付け、基礎学力の定着を図る。</p>
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<p>○校区の小中学校と定期的な情報交流をし、小中一貫の学習・生活習慣作りを継続する。現在の様子を交流し、大切にすることを共有する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策には万全を期しながら、出前授業や講話など、地域の人材等を広く多彩に活用する。</p>	B	<p>・これまで通り、担当職員間の情報交流を行うことができた。小中交流の行事は実施できたが、オンラインでの実施にとどまり、今後、内容や回数、方法は改善を重ねる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症感染予防には十分配慮しながら、出前講座を可能な限り実施できた。次年度は校区内から講師を依頼する場を設定する。</p>	<p>・小中の交流により、お互いの指導を確かめ合い、子どもを地域の学校として一つになって育てることは大切だと考える。</p> <p>・地元の人材を生かし、積極的に出前講座が活用できるとよい。地域や社会の知見を知ることにつながる。</p> <p>・子どもを育てる会連絡協議会の事業終了に伴い、コミュニティ・スクールの組織等の見直しに期待する。</p>	<p>・小中連携の中身を精査し、子どもに対する途切れのない支援が充実するよう交流の場を工夫する。</p> <p>・地域の組織を再編し、コミュニティ・スクールの機能が生かせるよう組織を工夫する。</p> <p>・地域人材の活用として、講師依頼に加え、行事等の補助も依頼し、子どもとともに活動する場を工夫する。</p>
教育環境と学校財務環境の整備	<p>○マイタブレットを積極的に活用した生活・学習スタイルを構築する。</p> <p>○会計業務のシステム化と計画的運用により、処理を随時見直す。</p>	A	<p>・感染症の感染拡大予防の観点から自宅待機する子どもに対しても、確実にオンラインで授業を実施した。また、各種アプリケーションソフトをもとに子どもの実態を把握したり、意見交流に活用したりできた。</p> <p>・昨年度同様、事前説明と途中の確認により、会計業務の効率化を図った。</p>	<p>・オンライン学習というスタイルが確立したことは素晴らしいと感じる。登校できない子どもも授業の内容が分かるようになり、授業の差別化がなくなったと感じる。</p> <p>・タブレットの活用が飛躍的に伸び、ペーパーレス(教員の教材準備等)、働き方改革、子どもの思考力、表現力等の向上につながると感じる。今後、よりよい活用法を探るべく小中で交流できるとよい。</p>	<p>・タブレットや活用できるアプリの利用そのものが目的とならないよう、子どもの学習の道具として、引き続き有効な活用方法を探る。</p> <p>・職員間にタブレットを活用する力量の差が生じないよう、研修を重ねる。</p> <p>・会計業務のシステム化、計画的な運用は継続する。</p>
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<p>○生徒と共に新型コロナウイルス対策を意識した取組を積極的に行う。</p> <p>○危機管理マニュアルをもとに、命を守るための防災減災に関する実践的な研修や訓練の設定をする。</p>	A	<p>・新型コロナウイルス感染症対策については、子どもはもとより、保護者への説明・協力依頼も含めて対応を徹底した。生徒会活動においても換気や手洗い、黙食等を定着させることができた。</p> <p>・大学教授を講師に招き、2年生に減災・防災研修を実施した。また、予告なしで避難経路に障害を設置し、その場に応じた避難ができるよう実践的な訓練を実施した。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症には、学校、家庭、地域で徹底して感染対策を進めてきた。今後、感染症としての扱いが変わった後の状況が心配である。情報をもとに適切な対応を進める必要がある。</p> <p>・コロナ禍への対応は、まだまだ安心はできず、学校としては心配や苦労が絶えないが、安全・安心な学校づくりを進めていきたい。</p>	<p>・国、県、市からの情報、指示をもとに、新型コロナウイルス感染症への適切な対応を継続し、安心・安全な学校づくりを推進する。</p> <p>・防災学習については、水害、地震、火災等への対応を各学年、系統的に実施できるよう試行する。</p>

HPアドレス:

<https://gifu-city.schoolcms.net/gifunishi-/>